

# 中学生向け文化財学習プログラム「国宝・彦根城」の考案

0012506 亀本涼介  
指導教員 市川智史教授

## 1. はじめに

日本全国には、古くからの建造物・寺社といった文化財が多く残っており、世界文化遺産登録をめざす取り組みが活発化する一方で、寺社に油をかけるといったような行為も見られている。2006年の教育基本法では「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」ことが目標に掲げられた。日本の歴史を知り、日本人としてのアイデンティティをより確かなものにするためにも、身近に残る文化財について学習することは重要であると考え、現在の中学生は文化財を学習する機会がほとんどない。そこで本研究では彦根城を取り上げ、滋賀県の中学生が彦根城の価値や大切さに気づき、地元の貴重な文化財として誇りと関心を持つことのできるプログラムの考案を行う。

## 2. 作成したプログラム

プログラムのねらいを、 国宝は国民の宝であることを知る、彦根城の特徴について理解し、どのような点が国宝に値すると認められたのかを考える、彦根城の良さを人に伝えようとする態度を育てる、の3点とした。プログラムは4時間構成とし、前半2時間を彦根城の特徴に関する授業、後半2時間を調べ学習とした。前半2時間

表1 作成したプログラム（前半2時間）

では、まず国宝が「国民の宝」であることを押さえ、松江城との比較から国宝の条件を考えさせる構成とした。そして、歴史性、遺構としての保存状態、希少な外観的特徴の3つの観点から、図や写真を用いて、彦根城の特徴を理解させる構成とした（表1）。

時	内容
第1時	・「国宝」＝「国民の宝」であることを確認する。 ・松江城と比較し、国宝の条件を考える。（松江城クイズ） ・築城年から、彦根城の特徴「古いこと、年代が明確なこと」をとらえる。 ・松江城と彦根城の平面図を比較し、彦根城の特徴「遺構をよく遺す城」をとらえる。
第2時	・彦根城、松江城、犬山城、松本城の写真を用い、彦根城の天守の様子から特徴「稀少性、珍しさ」をとらえる。 ・国宝・彦根城の特徴と文化財としての価値をまとめる。

## 3. 模擬実践

プログラムの評価と改善点の把握のため、2015年11月18日（2限）に院生、学生、環境学習支援士受講生、計7人を対象に、プログラムの前半2時間の模擬実践を行った。その結果から、学習者が彦根城の特徴や価値についてよく理解できた、写真や図を用いた比較をスムーズに行うことができた、などの成果が得られた。一方、学習者が一人で考える時間が少ない、プログラム中のクイズの解答が複数ある、比較に使う図が見つらい、などの課題が明らかとなった。

## 4. プログラムの改善

模擬実践の結果を踏まえ、以下の3点を中心にプログラムを改善した。

- ・改善1：生徒個人で考える時間、および意見交流の時間を増やす。
- ・改善2：プログラム中のクイズの選択肢と解答を修正する。
- ・改善3：比較に用いる図や、生徒への指示を修正・改善する。